

交流

直流

「企業など組織内の男性と女性、いわゆるジェンダーの特性をき

4年前に組織業務を分社譲渡。現在は1人で執筆や講演など幅広く手がけ多忙な日々を送っている。「本業は何?とよく聞かれるけど、自分に依頼され、やりたいと思った

の問題だけでなく、組織の中におけるジェンダーを理解できず、ぎくしゃくした関係になっってしまう例も多い。上手に把握することは以前にも増して重要になってきている」と見る。

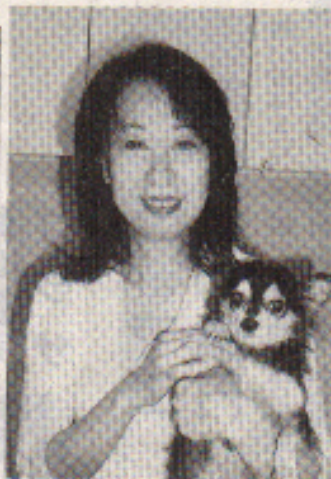
### 組織内のジェンダー特性活用を

ちんと理解し、うまく活用してほしい」と話すのは、㈱G&S代表取締役社長の萩原扶未子氏。

「女性の社会進出が進む中で、女性上司も増えている。セクハラ

2年前には県内で初めてシニア(旧中級)産業カウンセラーの資格を取得。企業などへのアドバイスも行って

いる。「鬱(うつ)患者の増加が大きな社会問題。国民病とも言われ、経営者にも増えている」という。「鬱の人はずく自分のせいと考えてしまう。本人が鬱に気づいてうまく自己コントロールできるようにならない」と解説。「会社の要人がなりやすい。中小企業では大変大きな問題に発展してしまう」と警鐘を鳴らす。



増える経営者(うつ)の鬱  
萩原扶未子G&S社長  
というという

大手システムハウスに勤務していたが病気、結婚を機に退職。25歳でシステム開発会社を創業し、翌年には白社ビルも。現在、南山大学経営学部博士課程前期に通っている。国、県、金沢市など委員多数。43歳。金沢市三口新町在住。